

教 育 長 様

研究コース	
A グループ研究A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
741702	
選定番号	147

代表者	校園名 :	大阪市立矢田北小学校
	校園長名 :	清水 健司
	電話 :	06-6705-1601
	事務職員名 :	東 将武
申請者	校園名 :	大阪市立矢田北小学校
	職名・名前 :	首席 川口 祐太郎
	電話 :	06-6705-1601

令和 6 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度 「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究（1年目）	
2	研究テーマ	個別最適な学び、協同的な学びへの指導・支援方法を探る —子どもの特性を知るアセスメントとUD化を通して—				
3	研究目的	1、児童・生徒へのアセスメントからそれぞれの発達にあった支援方法の探求 2、環境整備UD化の追究 3、専門的な講師による研修会や講演会への参加を通じた、教員の専門的知識と自己研鑽の意欲の向上				
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 9.5ポイント) <ol style="list-style-type: none"> 活動報告（4年）・研修会を開催し、SWPBSの取り組みに向けた研修を行った。 1月21日 講師 大阪教育大学 庭山 和樹教授 ・今年度の「がんばる先生支援」研究支援の報告会を行った。 ・授業検討と研修会を通して発達課題のある児童に対しての手立てや支援法を検討した。 SWPBSに向けた研修を行った（年4回） 7月25日 SWPBSについて（矢田北小） 11月29日 クラスの中にあるPBS 算数チャレンジについて（矢田北小） 12月23日 PI指導について 1月24日 次年度以降の、取り組みについて。 Hyper-QUを年実施し、児童の学級満足度、社会性についてアセスメントをとった。 2月3日に講師 大阪教育大学 水野 治久教授を招聘し、検査結果について研修を行った。 算数チャレンジを年2回行い、算数の下位スキルの習得率をはかり、その後の指導に生かすことができた。（クラスでの最初の3分で練習問題を行ったり、学びサポーターと連携を図り、放課後学習に生かしたり など） ビジョントレーニング・コグトレ・グッドイナフ ・必要に応じて、認知機能トレーニングの実施 ・4年にグッドイナフを実施し、体の不器用さや、スポーツテストに向けてのボディイメージの確認を行い、その後の指導に生かすことができた。 				
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
	日程	令和 7 年 1 月 21 日			参加者数	約 25 名
	場所	矢田北小学校				
	備考					

6	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○Hyper-QUやスクリーニングシートを活用し、児童の学級満足度を図るとともに、子どもたち同士のつながりを可視化し、データとして活用することで、学級経営、校内の児童理解に繋げていく。各学級にあった取り組みを進めていく指標としていく。</p> <p>『検証方法』 昨年度のhyper-QUの結果と比べ、満足度の高い児童を増加させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕 昨年度の結果から、対応を協議し今年度のPBSの取り組みを進めてきた。 その結果、大きく満足度が向上した学年、児童があった。 対応が必要な児童、困り感を持っている児童に対して、教職員が団結して解決に向けた取り組みを進めた言った結果であると考えられる。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○認知機能や視機能を向上させるトレーニングに関する研究を進めることにより、児童の「対人スキルの獲得」や「書く力」・「読む力」・「運動能力」などを育成し子どもの自信につなげる。</p> <p>『検証方法』 成果・課題 抽出学級の児童・生徒を対象とした視写テストにおいて速度と正確性を実施前より上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕 正しく図形を描き写したり、記号の場所を正しく覚えるなどの「見る力テスト」（アセスメントチェックシートより）の正答率 (調査対象：小4年 28名) 11月 64% 2月 84% 正答率が上回り、1回目より20%上昇させることができた。ビジョントレーニングやコグトレ(ET)などのトレーニングを行うことで、視機能の向上につながったと考えられる。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○不器用さを改善させるための教室・学校環境づくりを進め、さらにUD化を進める。それらの取り組みが、児童・生徒のボディイメージを高める結果につなげる。</p> <p>『検証方法』 体の発達、特に腕や手指の運動能力と関係が深い描画検査グッディナフ人物画知能検査や運動能力を計る検査において実施前後で比較し平均値を3ポイント上げる。</p> <p>〔検証結果と考察〕 グッディナフ人物画知能検査（調査対象：4年 28名） 全国体力・運動能力調査に向けて4年生でグッディナフを実施した。 11月 32点（9歳2か月） 1月 34点（9歳6か月）という結果になった。 体の認知において実年齢よりも低い結果となった。令和7年度のスポーツテストに向けて、不器用さや、左右差ができるような体育科の学習や運動につなげていきたい。</p>
---	--

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>○教員の研究会・研修会参加を通して発達に対して専門的な知識を身に付けることができる。 特に、スクールワイドPBSや授業UDについて研究を深める。</p>
		<p>『検証方法』</p> <p>教員へのアンケートを実施し「研修会に参加して役に立った」の肯定的回答を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>アンケート結果より「研修会に参加して役に立った」の肯定的な回答が100%であった。今回、大阪教育大学の庭山准教授や水野治久教授に来ていただき、PBSやABC行動分析、Hyper-QUの見方などを学び、次年度50周年を迎える本校での行動マトリクス、行動目標を立てていきたい。今回の研修を活かしていきたいという意見が多かった。</p>

		<p>【研究全体を通した成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>今年度は、「個別最適な学び、協同的な学びへの指導・支援方法を探る—子どもの特性を知るアセスメントとUD化を通して—」を研究主題とした研究を行った。本研究を通して、児童のアセスメントの視点を増やす研修会や全国UD研究大会に参加するなどして、多くの知識や情報を学校の中で共有することができた。研修の中でも、専門家との連携をとることで、子どもたちに対して課題が何かを見極め、適切な支援方法を考え実践していくことができた。その結果、子どもたちの変容が現れるようになり、子どもたち自身もできるようになったことで自己効力感が向上していった。合わせて、教師のモチベーションの向上にもつながったことが大きな成果といえる。しかし、年度途中に担当者が担任になったことで、いくつかの取り組みが行えなかった部分もある。今後も、教員の研修会を充実させるとともに、教員間の連携を図れるようチームを作り、さらなる支援方法の獲得をめざしたい。子どもたちのアセスメントをしっかりととり、課題にあった支援を行うことで、子どもたちの困り感に合った取り組みを行えるよう努めていきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>〔代表校園長の総評〕</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度まで矢田中学校下の2小1中で様々な取り組みを進めてきた。3年間、庭山准教授の指導を受け、PBSの視点やアセスメントの取り方、データの活用の方法について学んだ。今年度から、自校での更なる発展を目指し取り組みを進めてきた。教員個々の専門的な知識を深められるよう校内での研修だけではなく、全国UD大会にも参加することができた。担当者が年度途中、担任を兼務することになり、当初の計画通り進められない部分もあったが、いくつかの成果が上げられる。</p> <p>1点目は、専門家によるhyper-QUの分析をしていただくなど、児童相互の関係を客観的に把握することができ、次年度の研究への足掛かりを作ることができた。</p> <p>2点目は、教職員の指導力の向上がみられた。PBSやUDの視点を持ち授業や学校行事に取り組むことで、ねらいを達成をするための道筋がたてられた。今後は、今年度検査を実施した学年を経年で追跡調査し、特に小中での連携を強化しながら取組を推進する中で研究の成果を実証していきたいと考える。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>
--	--	---